

— 第 631 号 —
 新潟市中央区浜浦町1の1
 浜浦小学校
 電話 (025) 266-3181
<http://www.hamaura-city-niigata.ed.jp/>

大人への階段

校長 小林 圭一

あなたたちの仕事は、「大人への階段」を昇ることだ。

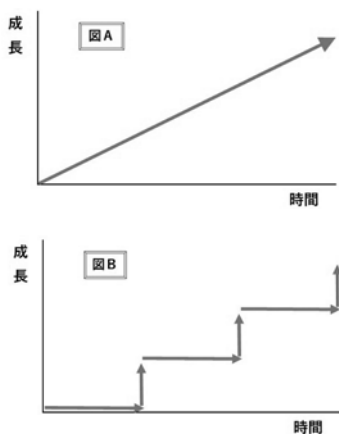
春から何度も繰り返して、子どもたちにも伝えてきた。この九か月あまりで、彼らは何段の階段を昇っただろう。

「子どもは日々成長する」「毎日ぐんぐん伸びる」といった言葉をよく耳にする。それは確かなことなのだが、気に止めておきたいこともある。

左の2つの図をご覧いただきたい。「日々成長」という語からイメージするのは、一般的には図Aではないだろうか。しかし、こうはならない。子どもの成長は、図Bのようなになる。

例えば、初めて鉄棒の逆上がりができた時を思い出していただきたい。初めて挑戦した時は、当然何もできない。そこで練習をする。が、できる気配は全く無い。

翌日も練習する。やはりできない。できないまま何日も過ぎる。上達したのかどうかさえ実感できない日が続く。だんだん嫌気が差してくる。



ところが、「もう諦めよう」などと考える頃、唐突に回れるようになる。嬉しくて嬉しくて、二日中鉄棒にしがみつくと、次は足かけ回りだと意気込み、新たな挑戦が始まる。

時間を経ても、努力を積んでも、成長できない時がある。図Bで言えば、横向きの矢印の部分だ。しかし、その先には、一気に伸びる時が必ず来る。その時まで、がんばり続けよう。

図Bは、まるで階段のように見える。そこで、子どもたちには「大人への階段」と伝えてきた。

教育の世界に伝承されている、子どもが一気に伸びる目安は「一〇〇」だ。

例えば、逆上がりを一〇〇回練習すれば、できるようになる。九九を一〇〇回唱えれば、覚えられる。一〇〇が八〇や一二〇になることはあるけれど、基準はやっぱり一〇〇。だから、「一〇〇回続けよう」と声をかける。

しかし、一〇〇続けるというのは、そう簡単なことではない。途中でくじけてしまうのも無理のない話だ。

ここで、大人の出番となる。くじけそうになる子を励まし、がんばりをほめ、一〇〇を目指す子どもを支える。そして、子どもが一気に伸びたときには共に本気で喜ぶ。私たち浜浦小の職員は、春からこんな風に子どもの成長を支えてきたつもりではある。

お子さんはここまで、どんな階段をどれだけ昇ったのか。冬休みにはぜひ、各ご家庭で話し合っていたいただきたい。